

NEWS RELEASE

DG ビジネステクノロジーと ROUTE06 が業務提携し、 AI で要件定義を変革する SaaS「Acsim」を提供開始

～豊富な開発実績と AI を融合し、属人化・人材不足が課題の上流工程に再現性とスピードを提供～

デジタルビジネス総合支援を手掛ける株式会社 DG ビジネステクノロジー（デジタルガレージグループ会社 / 本社：東京都渋谷区、代表取締役 兼 社長執行役員：清水 和徳、以下：DGBT）と、株式会社 ROUTE06（東京都千代田区、代表取締役：遠藤 崇史、以下：ROUTE06）が業務提携し、ROUTE06 が開発・提供する、AI で要件定義を変革する SaaS プラットフォーム「Acsim（アクシム）」を 2025 年 8 月 18 日よりコマース事業者に対して提供します。

DGBT の強みであるエンタープライズ向け EC 開発で蓄積した複雑な商流・業務要件への対応力、ERP を源流とする業務ノウハウやプロジェクトマネジメント力に、ROUTE06 の先進的な AI 技術を掛け合わせることで、EC リプレイスや大規模開発プロジェクトを上流工程から成功に導き、企業の DX 推進を加速します。

DG ビジネステクノロジーと ROUTE06 が 業務提携し、AI で要件定義を変革する SaaS 「Acsim」を提供開始



■業務提携の背景

近年、生成 AI の活用が広がる一方で、DX の起点となる要件定義は依然として属人性が高く、再現性や効率性を確保することが難しい領域です。上流工程では人材不足やスキルギャップを背景に、プロジェクトの遅延・コスト増・品質低下が深刻な課題となっています。特に EC 事業では、消費者ニーズの多様化、複数チャネルの統合、基幹システムや外部サービスとの連携強化などにより開発要件が複雑化しています。

DGBT は 1,100 超の EC 構築で培った実績を強みに、戦略立案から業務設計、システム導入・運用改善まで一気通貫で支援し、企業の DX 推進を支えてきました。今回の協業で、DGBT の実行力に「Acsim」の AI を活用した上流工

NEWS RELEASE

程支援機能を組み合わせることで、DGBT が支援するプロジェクトはもちろん、顧客の内製プロジェクトや他パートナー主導の開発においても、業務課題の整理から設計・実装までスムーズに遂行できる、再現性とスピードを兼ね備えた DX 支援モデルの提供が可能になります。

■「Acsim」の概要

「Acsim」は、属人化しやすい要件定義において、AI が推進者の思考を補完・強化し、誰もが要件定義ができる世界を実現する生成 AI プラットフォームです。現状把握や課題抽出、改善方針提示、本格的なプロトタイプ構築、稟議支援、設計書の自動出力まで、要件定義に必要なプロセスを一貫して支援します。生成された設計情報は構造化データとして蓄積され、実装・テストといった後続工程でも活用可能。開発全体の品質を高め、意思決定の精度とスピードを飛躍的に向上させます。

【Acsim の特長】

- ・ **会話から現状業務フロー生成・課題特定を自動化**：AI が会話内容を構造化し、的確な課題整理を支援
- ・ **改善方針・計画策定を AI エージェントが支援**：設計観点や論点を AI が提示。未経験者でも抜け漏れなく進行
- ・ **本格的なプロトタイプ生成**：UI や機能を自動生成し、認識齟齬を未然に防止
- ・ **稟議資料を整備**：定量・定性の効果を算出し、意思決定をスピードアップ
- ・ **設計書を自動出力**：業務フロー、ユースケース、画面一覧など、必要な設計書を標準フォーマットで出力

▼「Acsim」サービスページ：<https://ai.acsim.app>

Acsim が備える 5つの主要機能

Acsimには、要件定義プロセスを一貫して支援する以下の機能が搭載されています。

会話から業務フローを生成、 課題特定を自動化



議事録 & Excelなどの作図
数分でフローの生成が可能

改善方針・改善計画策定を AIエージェントが支援



本格的なプロトタイプ作成

データの入力・編集可能な本格
プロトタイプで仕様確認

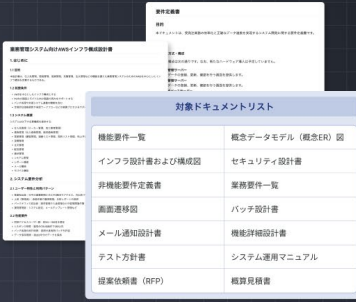


開発稟議に必要な情報を生成

システム導入効果をすぐに
可視化し、稟議を前に



設計書を自動出力



対象ドキュメントリスト	
機能要件一覧	概念データモデル (概念ER) 図
インフラ設計書および構成図	セキュリティ設計書
非機能要件定義書	業務要件一覧
画面遷移図	バッチ設計書
メール通知設計書	機能詳細設計書
テスト方針書	システム運用マニュアル
提案依頼書 (RFP)	構築見積書

NEWS RELEASE

■今後の展開

DGBT と ROUTE06 は今後、AI を活用し上流工程の効率化・高度化を実現する実践的 DX モデルの普及を目指し、大手～中堅 EC 事業者のリプレイス・大規模開発プロジェクトを始めとした顧客への共同提案の強化や PoC 支援パッケージなどのソリューション拡充を推進します。

また、DGBT は、デジタルガレージの決済・データ・テクノロジーを融合したグループ戦略「DG FinTech Shift」のもと、コマース事業者の売上向上と業務効率化を支援するため、EC 向けマーケティングサービス「[NaviPlus シリーズ](#)」や不正検知サービスをはじめとする各種ソリューションにおいて AI 機能の強化に継続的に取り組んでいます。さらにグループで推進する AI・データサイエンス領域の先進技術の社会実装に向け、ROUTE06 をはじめとした国内外の先進テクノロジーパートナーとの連携や自社開発を通じて、EC 領域での AI 活用を加速させ、事業者の競争力向上と持続的な成長に貢献していきます。

■ウェビナー開催のご案内

本協業の発表を記念し、生成 AI による要件定義の変革をテーマに、「Acsim」の具体的な活用方法について解説するオンラインセミナーを開催いたします。現場での活用事例の紹介や、フロントエンドの即時構築を可能にする『v0 (by Vercel)』、バックエンドの自動生成を実現する『Supabase』との連携による新しい開発スタイルのご提案など、実践的な内容をお届けします。ぜひご参加ください。

AI × 要件定義の最前線

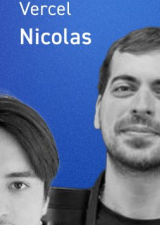
 ROUTE06 ×
  DGBT ×
  Vercel ×
  supabase

生成AIプラットフォームを 活用した新しい開発実践

生成AIで要件定義を誰でもできる時代へ：
デモで体感する“AI × 要件定義”の現在地

9.25 THU 16:00-17:30

📶 ONLINE | 無料開催



Vercel
Nicolas



ROUTE06
松本 均



Supabase
Tyler



DGビジネステクノロジー
松田 孝宏

【開催概要】

セミナー名：AI x 要件定義の最前線：生成 AI プラットフォームを活用した新しい開発実践
 開催日時：2025 年 9 月 25 日（木） 16:00～17:30
 開催形式：オンライン（Zoom ウェビナー）
 参加費：無料
 主催：ROUTE06、DGBT、Vercel Inc.、Supabase Inc.
 プログラム：1. オープニング：AI 要件定義の最前線へようこそ
 2. 【事例紹介】Acsim による要件定義の現場活用

NEWS RELEASE

3. 【統合デモ】Acsim × v0 × Supabase で実現するプロトタイプ構築
4. 【製品解説①】v0 で実現するフロントエンドの即時構築
5. 【製品解説②】Supabase でここまで簡単になるバックエンド構築
6. クロージング

申込み方法：以下の URL よりお申込みください。

<https://www.dgbt.jp/news/topics/20250925-ai-requirements>

【DG ビジネステクノロジーについて】<https://www.dgbt.jp>

DG ビジネステクノロジー（DGBT）は、デジタルガレージグループのデジタルビジネス総合支援企業です。戦略支援、システム戦略、デジタルマーケティング、セキュリティ、データ活用など、多彩なソリューションを組み合わせ、戦略策定から販促、購入、リピートまで、コマースやデジタルビジネスのあらゆるプロセスを包括的に支援し、事業者の成長を後押しします。また、グループ戦略「DG FinTech Shift」をもとに、決済事業を展開する株式会社 DG フィナンシャルテクノロジーと DGBT の両輪体制で、事業者のビジネス最大化と経営基盤の強化を支援します。

DGBT は、EC 黎明期からコマースビジネスを支援してきたナビプラス株式会社、株式会社 DG コマース、株式会社スクデットの 3 社が経営統合し、2025 年 4 月に新会社として始動しました。

【ROUTE06 について】<https://route06.com/jp>

ROUTE06 は、人と AI の協創によってプロダクト開発を再定義するスタートアップです。自然言語による対話と直感的なノード UI を融合したユーザー体験を軸に、要件設計「Acsim」、AI エージェント構築「Giselle」、データベース設計「Liam」などの AI 駆動開発プラットフォームを提供。設計・実装・運用の全工程に対応し、開発のスピードと品質を革新します。大手企業向けシステム開発の実績とモダンなプロダクト開発の知見を活かし、大手システムインテグレーターからスタートアップまで、すべてのプロダクトビルダーが自由にアイデアを形にできる未来を目指します。